

# エスディーゼーズ SDGsで未来を変えよう!



図 SDGs地域戦略推進室(内線4223)



SDGs(持続可能な開発目標)は、地球上に住む全ての人々が暮らしやすい社会を将来に引き継いでいくため、2015年(平成27年)9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された世界共通の17の目標です。  
 貧困、飢餓、不平等・格差、気候変動、自然破壊など、さまざまな課題を解決し、私たちの世界をより良くするためにあらゆる立場の人が17の目標を意識し連携して取り組むことで、未来を変えていくことを目指しています。  
 一人一人の小さな行動が、未来を変える大きな動きにつながります。できることから取り組んでみましょう。

**SDGs...**  
**Sustainable** (サステナブル:持続可能な)  
**Development** (ディベロップメント:開発)  
**Goals** (ゴールズ:目標)

今回は、未来をより良く変えるための17の目標「SDGs(持続可能な開発目標)」のうち、目標4～目標6についてご紹介します。

**4** 質の高い教育をみんなに

## 目標4 質の高い教育をみんなに

### 全ての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

世界では、貧困や地域の紛争などによって学校に通えない子どもたちが6,000万人以上、15歳以上で読み書きができない人は7億人以上もいます。  
 日本は、義務教育就学率が99%以上。しかし、不登校の小中学生は16万人以上あり、年々増加傾向にあることが問題となっています。  
 教育は、人々に健康で豊かな社会生活をもたらします。全ての人々が質の高い教育を受けられる社会づくりが大切です。

ターゲットの主な内容	市の取り組み例
<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての子どもが、無償で質の高い初等・中等教育を修了できるようにする。</li> <li>性別や障害の有無、民族などに関わらず、誰もがあらゆるレベルの教育や職業訓練を受けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>●適応サポート(けやき教室)事業</b> 教室に通う不登校児童生徒個々に応じた学習支援や、体験活動を実施して自立心や社会性の育成を行います。 ほかにも… ・就学援助、特別支援教育就学奨励事業、協働教育推進事業など</li> </ul>

**わたしたちにできること**

- いじめのない社会づくりについて親子で話し合ってみましょう。
- 地域の祭りや行事に参加するなど、子どもたちの体験や交流を豊かにする応援をしましょう。

## 目標5 ジェンダー平等を実現しよう

### ジェンダー平等を達成し、全ての女性および女児の能力強化を行う

世界には、女の子だというだけで学校に行かせてもらえなかったり、家事を押し付けられたりするのが当たり前という国がたくさんあります。  
 女性への迫害は途上国で特に深刻ですが、先進国においても、雇用や給与、家事分担など、さまざまな場面で女性差別が見られます。  
 日本でも、男性の育児休業取得率はわずか6%程度。制度が整備されても、まだまだ育児は女性まかせになっています。  
 社会の価値観を変えていくことが求められています。

市の取り組み例	ターゲットの主な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li><b>●男女共同参画推進事業</b> 男女共同参画社会の実現を目指し、女性人材育成事業、女性活躍推進事業および啓発事業を実施します。 ほかにも… ・子育て参加促進事業、ハラスメント対策の推進、DV予防啓発など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての女性や女児に対するあらゆる差別をなくす。</li> <li>人身売買や性的搾取など、女性や女児に対するあらゆる形態の暴力をなくす。</li> <li>政治、経済、公共分野において、女性の参画などの機会を確保する。</li> </ul>

**世界の男女平等ランキング**  
 日本は153カ国中 **121位**

**わたしたちにできること**

- 仕事も家事も子育ても、家族が協力し合って分担することが大切です。誰かに負担が集中していないか、家族みんなで話し合ってみましょう。

## 目標6 安全な水とトイレを世界中に

### 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

きれいな水は、私たちの暮らしに欠かせません。日本は、蛇口をひねると安全な飲み水が出る水道があり、学校や公園などにも清潔なトイレが整備されています。しかし、このような国は数えるほどしかありません。  
 世界では、安全に管理された水を使うことができない人が約22億人。これは世界の人口の約3分の1にもなります。不衛生なトイレや汚れた水は、コレラや赤痢などの感染を招き、毎年多くの人が亡くなっています。  
 今後、人口増加や気候変動が進むと事態はさらに深刻化し、2050年には4人に1人が水不足を抱える国で暮らすことになると予測されています。

ターゲットの主な内容	市の取り組み例
<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての人が安全で安価な飲料水を得られるようにする。</li> <li>全ての人が、平等に適切な下水施設や衛生施設を使えるようにする。</li> <li>水の利用効率を改善し、水不足に悩む人々を大幅に減少させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>●一般下水路整備事業</b> 一般下水路の機能を保持し、効果的な雨水等の排除により、地域生活環境の改善と公衆衛生の向上を図ります。 ほかにも… ・上水道対策事業、公共下水道建設事業など</li> </ul>

**わたしたちにできること**

- 日頃から節水を心がけることは、安全な水を使い続けていくことの大切さを知ることにつながります。お風呂の残り湯を洗濯に使う、シャワーの時間を減らす、トイレでは大小のレバーを使い分けるなど、できることから始めてみましょう。